

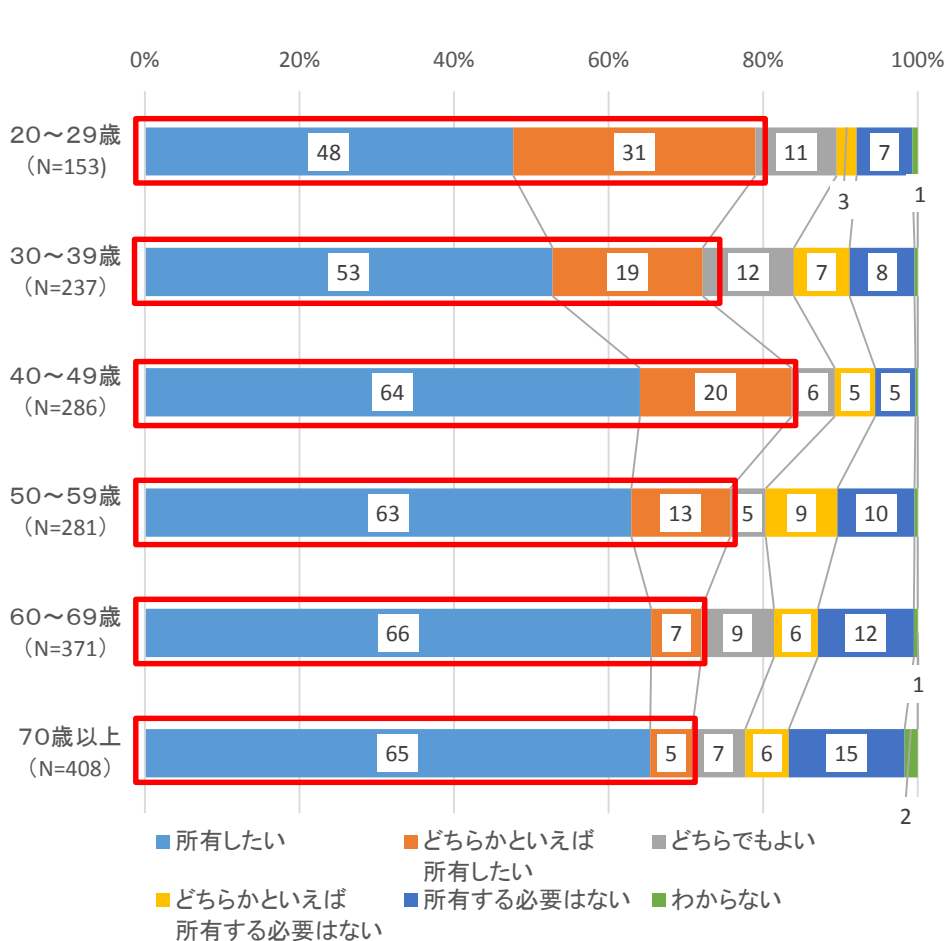
「住生活に関する世論調査」 補足説明資料

平成27年11月
国土交通省住宅局

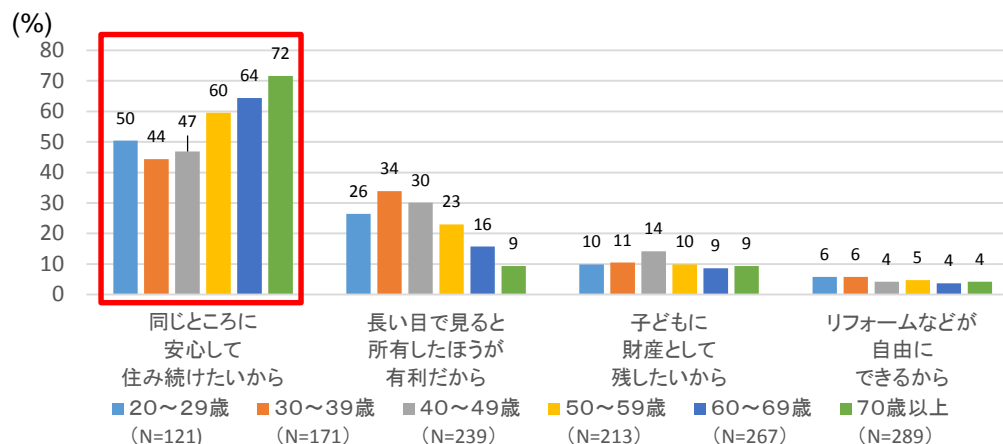
住宅の所有についての考えとその理由(年齢別)

- どの世代も住宅を所有したいと考えている割合が多い。
- 住宅を所有したい理由は、どの世代においても、同じところに住むことに対する安心感が最も多い。
- 住宅を所有する必要はないと考える割合として多いのは、①20～30代はローンや税といった経済的な負担への懸念、②40代以降は維持・管理が煩わしい、③どの世代も共通して家族の状況によって住み替えたいから。

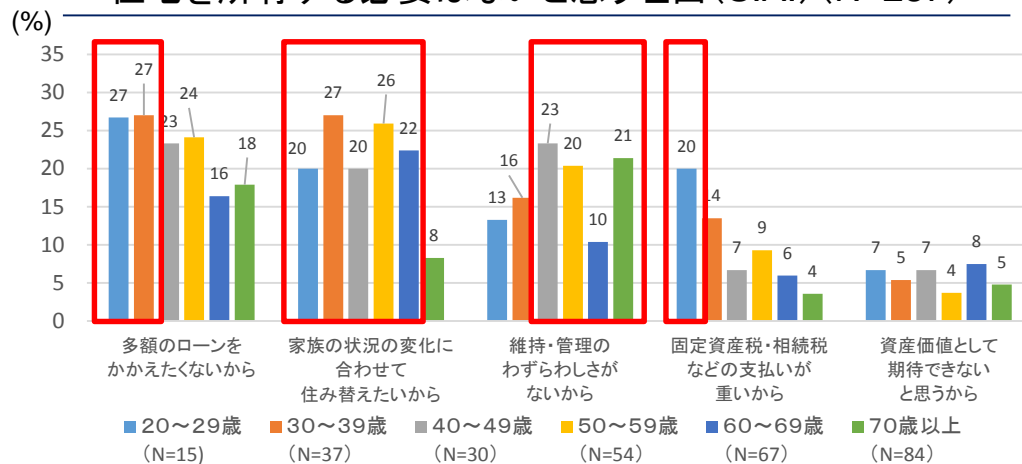
住宅の所有についての考え(S.A.) (N=1,736)



住宅を所有したい理由(S.A.) (N=1,300)



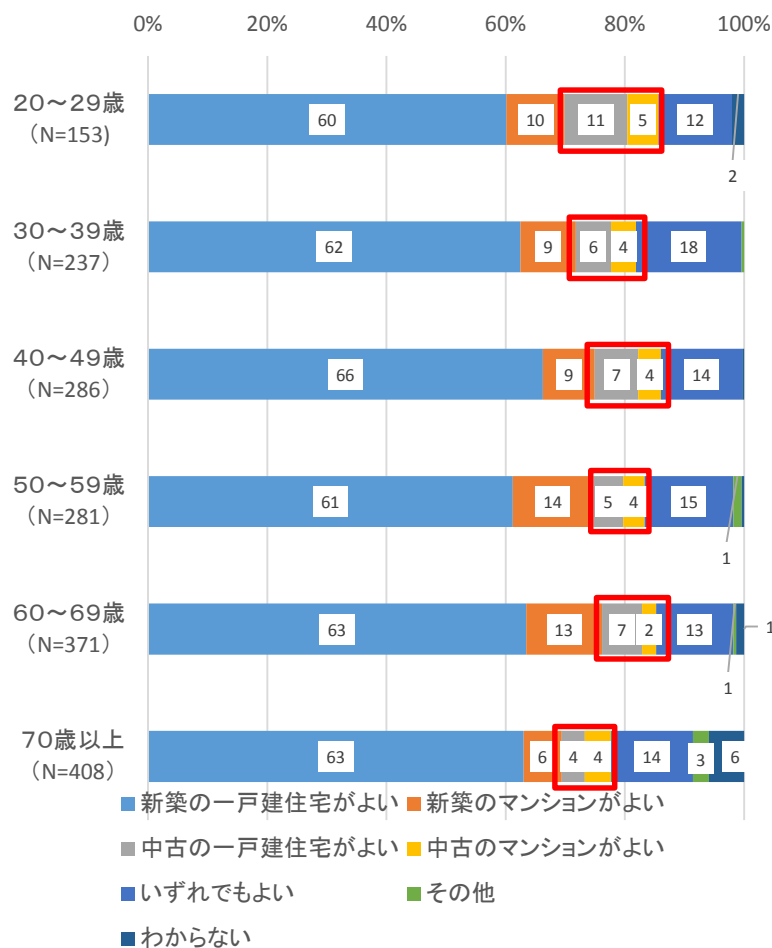
住宅を所有する必要はないと思う理由(S.A.) (N=287)



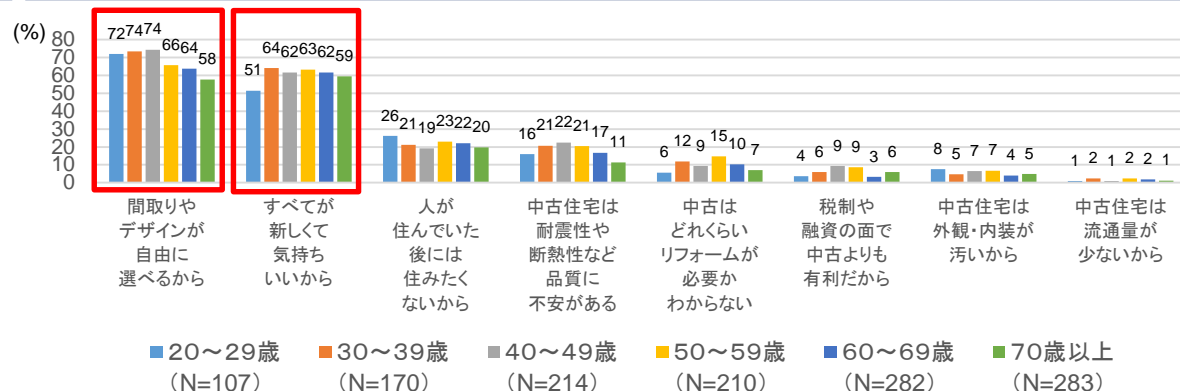
購入したい住宅についての考えとその理由(年齢別)

- どの世代も新築指向であるが、特に20代では、中古住宅購入への抵抗の割合が少ない。
- 新築住宅がよい理由は、どの世代においても間取りやデザインの自由度の高さ、新しく気持ちがいいからという理由が多い。
- 中古住宅がよい理由は、どの世代においても価格の手の届きやすさといった経済的な理由が多い。また、中古住宅がよいと回答した割合が多い20代においては、外観や内装のきれいな中古住宅が高く評価されていることから、適切なリフォームが行われ、新築と遜色のない外観や内装を備えていれば、中古住宅を購入したいという潜在的な需要が存在することが推測される。

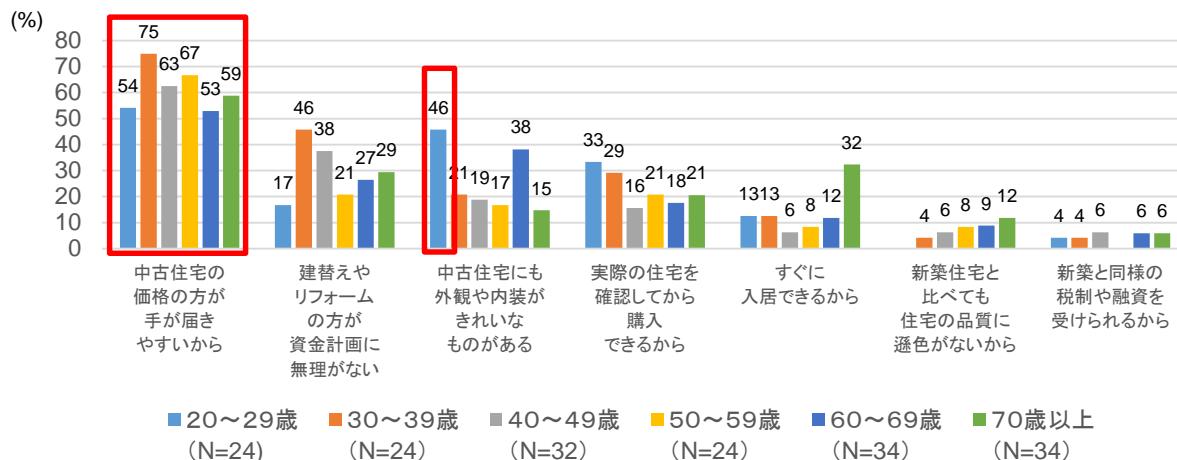
購入したい住宅(S.A.) (N=1,736)



新築の住宅がよい理由(M.A.) (N=1,266)



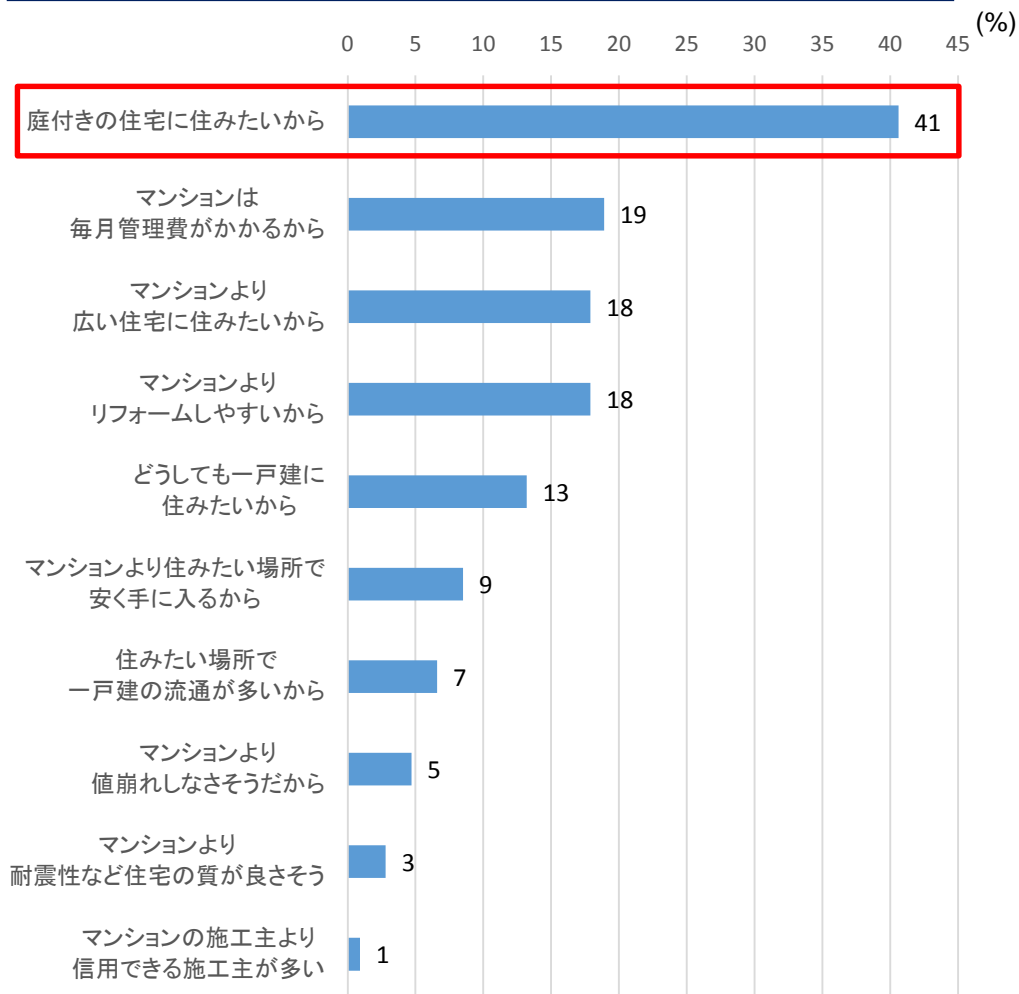
中古の住宅がよい理由(M.A.) (N=172)



中古のマンション、一戸建を選ぶ理由

- 購入するとしたら中古のマンションではなく、中古の一戸建を選ぶ人は、庭付きの住宅に住みたいという理由が最も多い。
- 一方で、購入するとしたら中古の一戸建てではなく、中古のマンションを選ぶ人は、維持管理や清掃がしやすい・一戸建より管理されていそうといった管理面や、広いスペースが必要ないという理由が多い。

中古のマンションより中古の一戸建を選ぶ理由(M.A.) (N=106)



中古の一戸建より中古のマンションを選ぶ理由(M.A.) (N=66)

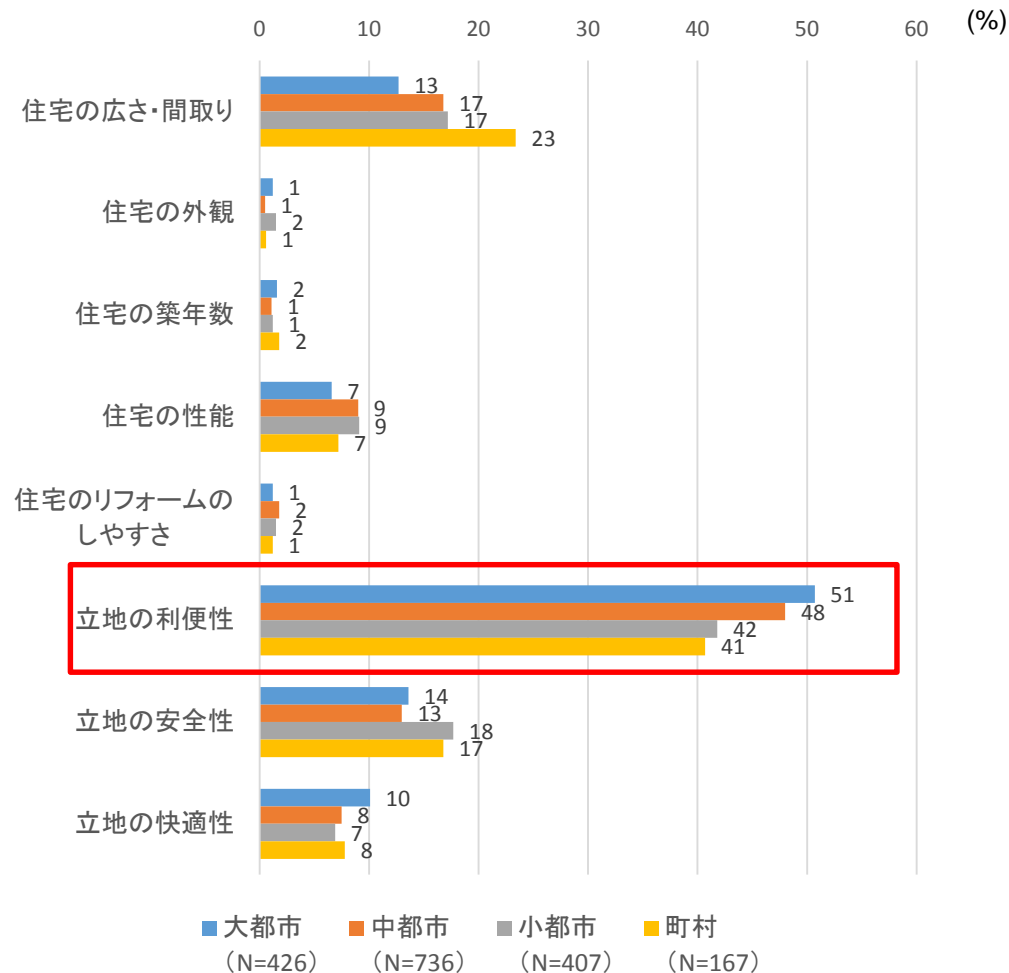
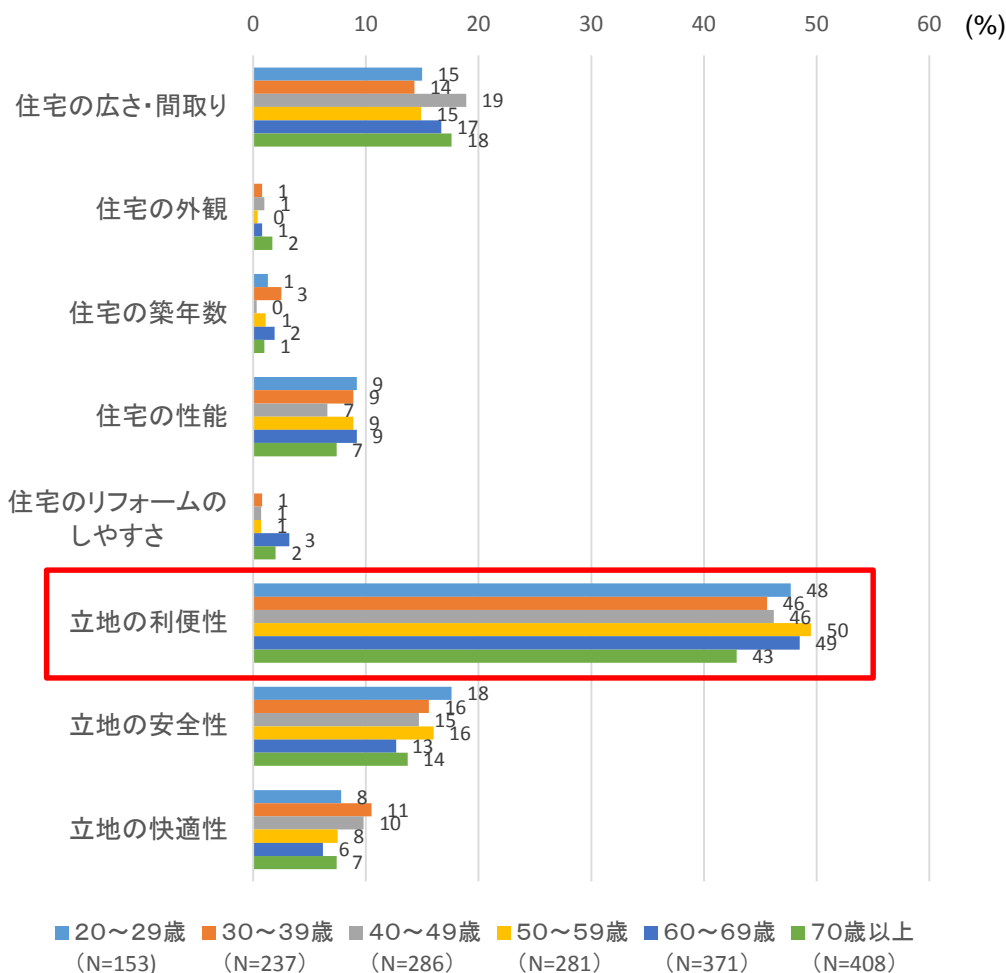


○ 住宅に重視されるのは、住宅の広さ・間取り、住宅の性能より立地。特に立地の利便性が重視される。

住宅および立地・周辺環境で重視すること(年齢別)(S.A.)

住宅および立地・周辺環境で重視すること(都市規模別)(S.A.)

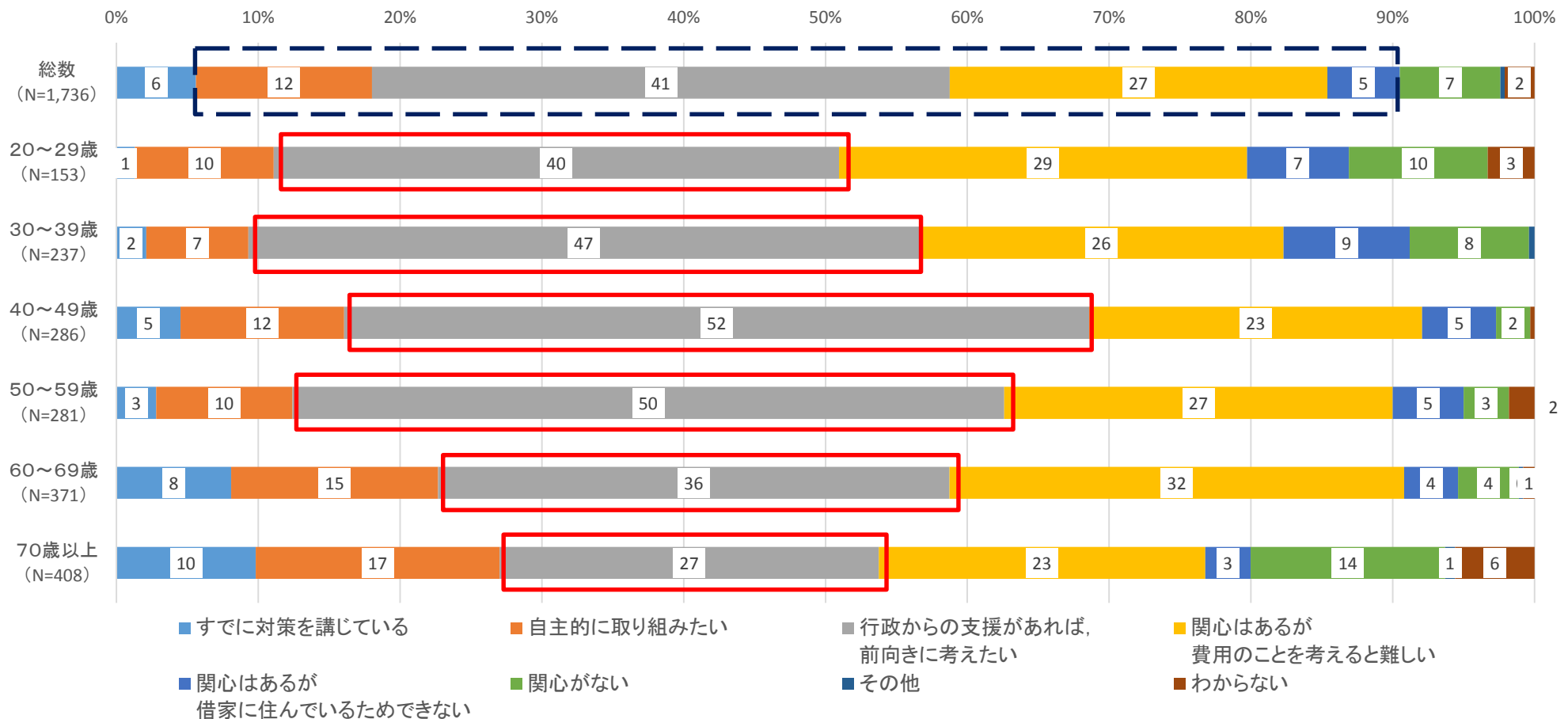
(N=1,736)



高品質な住宅を形成するための対策について(年齢別)

- 耐震性や断熱性に優れた住宅、高齢者や障害者に配慮したバリアフリー設備といった質の高い住宅を形成することに対し、約80%の人が関心を持っている。
- そういった質の高い住宅を形成することに対して、行政からの支援(工事費の一部補助や低利融資、税の優遇など)へのニーズが高い。

質の高い住宅を形成するための対策についての考え(年齢別)(S.A.)(N=1,736)

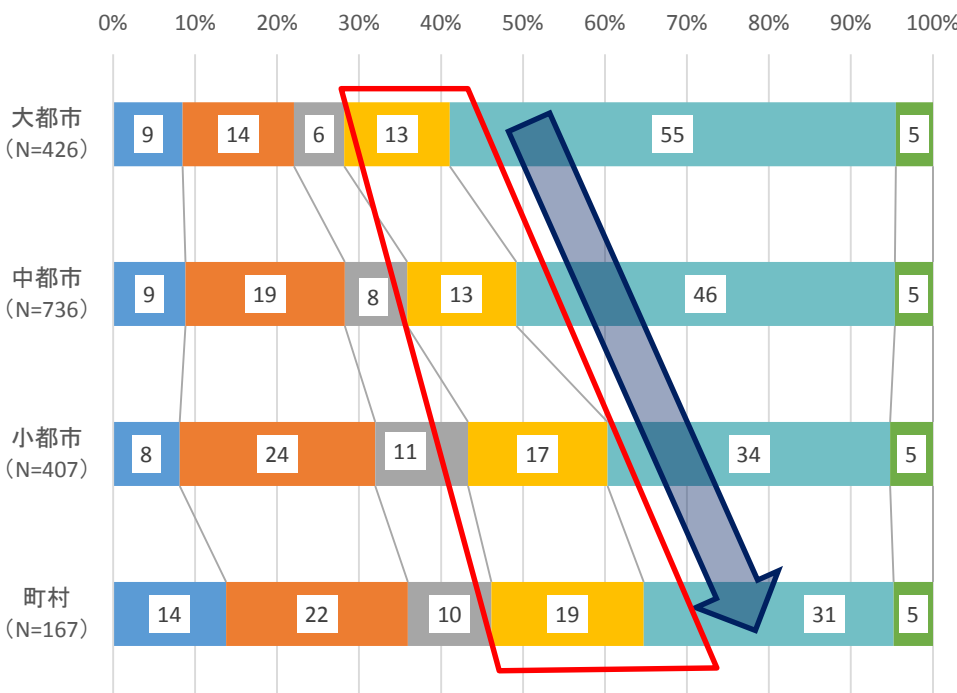


自宅の周辺にある空き家に対する実感とその対処法についての考え(都市規模別)

○ 周囲にある空き家の実感として、地方ほど空き家が多く、老朽化・腐朽が進みこれ以上使えない空き家が多くなっていると感じている。
 ○ 外部に影響を及ぼしている空き家は、90%が除却すべきと考えており、除却の責任所在は持ち主と行政で割合が拮抗している。

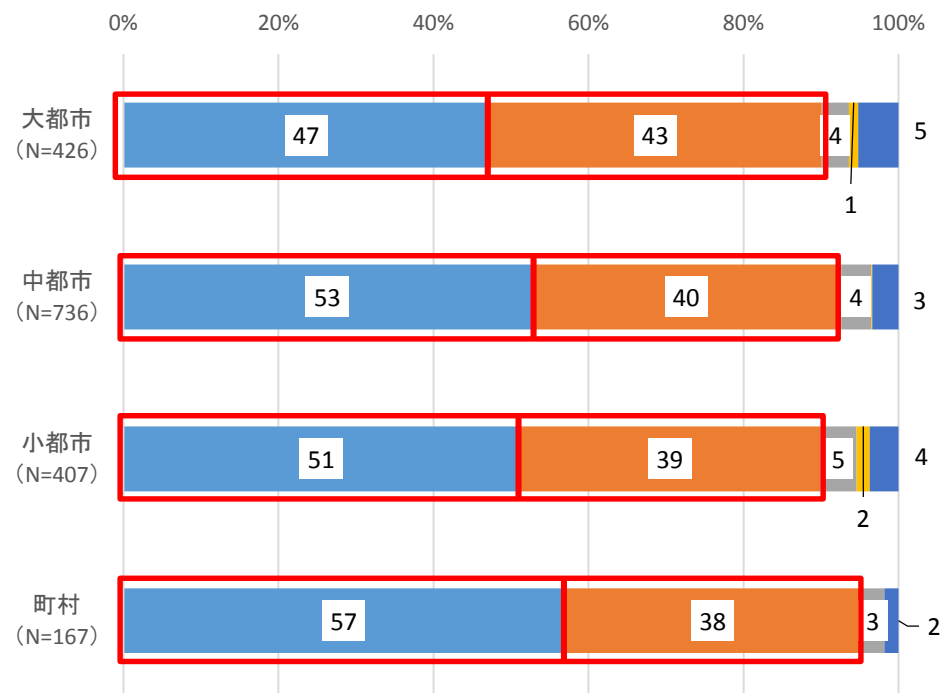
(N=1,736)

周辺にある空き家に対する実感(S.A.)



- そのまま利用できる空き家が多い
- 簡単なりフォームを行えば利用できる空き家が多い
- 大規模リフォームしないと利用できない空き家
- 老朽化・腐朽が進みこれ以上利用できない空き家
- 空き家は見かけない
- わからない

外部に悪影響を及ぼす空き家の望ましい対処法(S.A.)

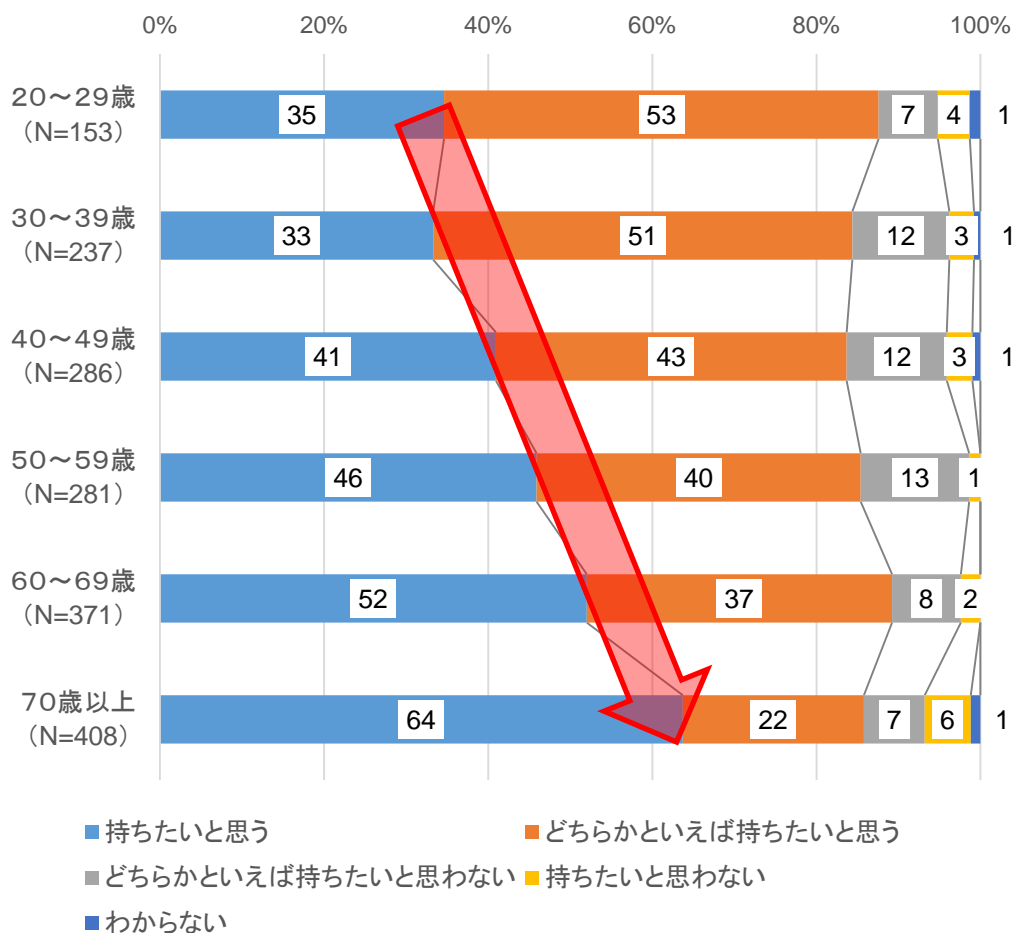


- 地域の価値を損なわないよう持ち主の責任で除却
- 地域の価値を損なわないよう行政が関わって除却
- そのままにしても構わない
- その他
- わからない

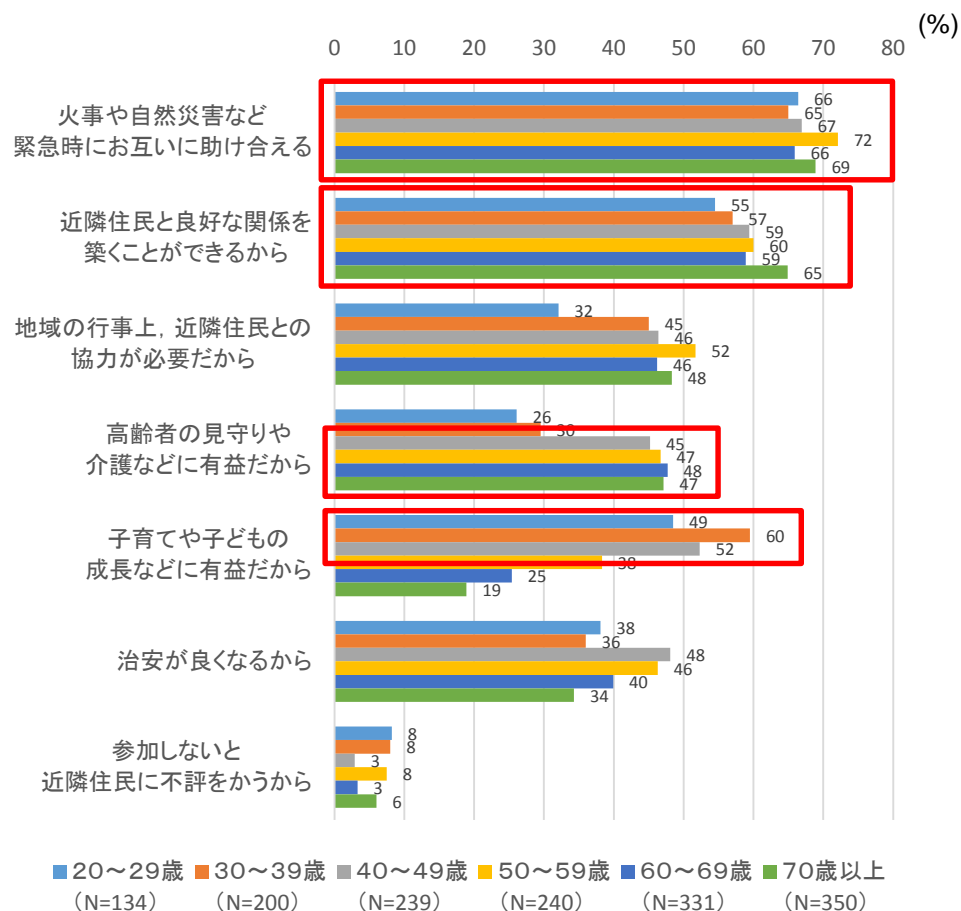
近隣住民や地域との交流・つながりについての考え(年齢別)

- 年齢が高いほど、近隣住民や地域との交流・つながりを積極的に持ちたいと考える割合が高い。
- 交流・つながりを持ちたいと考える理由は、緊急時の助け合いや近隣住民との良好な関係構築を挙げる割合が高く、40代以上では高齢者の見守りや介護への有益さを挙げる割合が高い。

近隣住民や地域との交流・つながりについての考え(年齢別) (S.A.) (N=1,736)

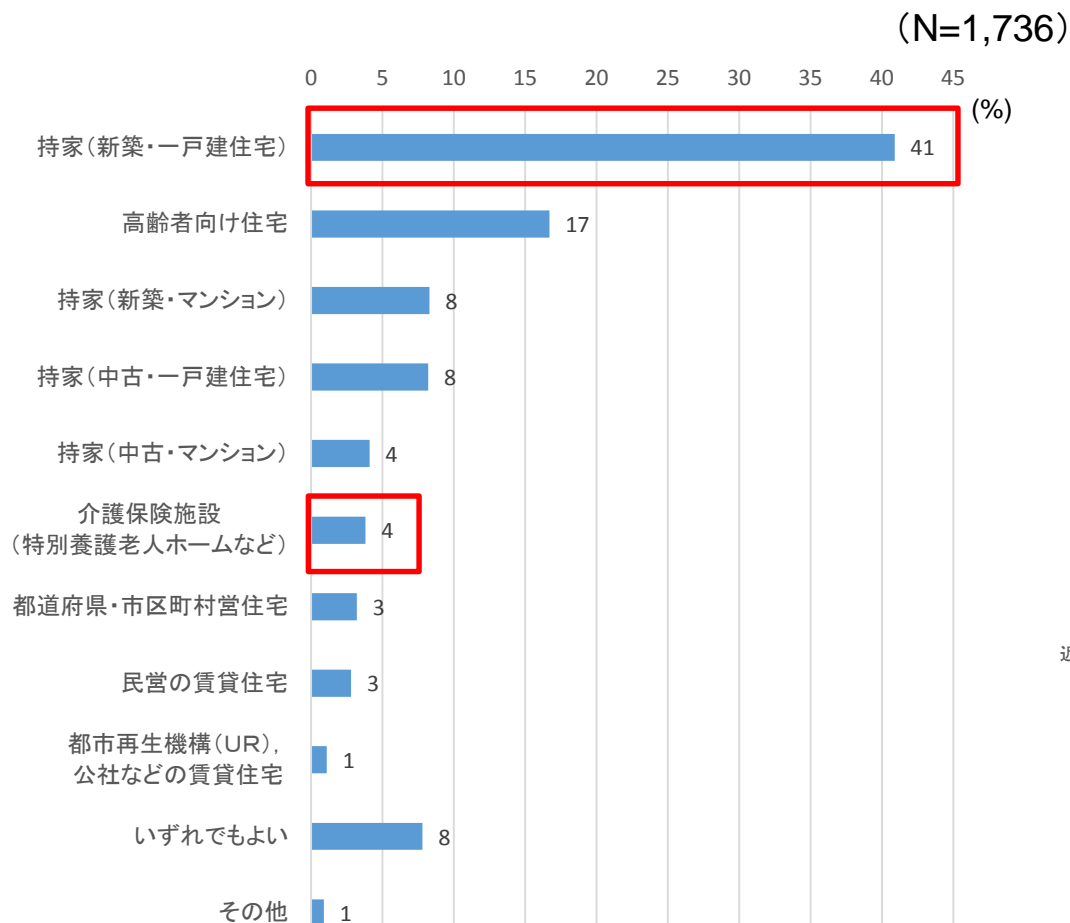


交流・つながりを持ちたいと考える理由(年齢別) (M.A.) (N=1,494)



- 高齢期に理想と考える住宅については、新築・一戸建の持ち家と考える割合は40%で最も多く、一方で介護保険施設は4%程度にとどまっており、在宅介護のニーズは高いと考えられる。
- 高齢期に理想と考える住宅の立地・周辺環境については、医療・介護・福祉施設や生活関連施設、また、公共交通機関へのアクセスの良さを重視する割合が高い。

高齢期に理想と考える住宅(S.A.)



高齢期に理想と考える居住地(M.A.)

